



NCCL（非う蝕性歯頸部歯質欠損）アップデート 2019
-A Requiem for Abfraction?/Return of Abrasion-

黒江敏史（山形県南陽市開業）

歯頸部に発生するう蝕が原因でない歯質欠損（Noncarious cervical lesion：NCCL）は、日々の臨床で頻繁に遭遇する硬組織疾患で、第三の歯科疾患と言われる tooth wear が歯頸部に限局して現れたものである。かつて NCCL は摩耗と酸蝕という独立した二つの疾患で構成されていると考えられていた。90年代に入り、そこにアブフラクションという新しい概念が導入された。その後、これら三つの要因が複雑に関与する多因子性の疾患と考えられるようになった。

ところが、アブフラクションに否定的な見解が近年増えてきている。例えば、昨年発表され歯周疾患とインプラント周囲疾患の新分類で注目を集めた、European Federation of Periodontology(EFP) と American Academy of Periodontology(AAP)の合同コンセンサスでは「アブフラクションは理論的コンセプトで、臨床的エビデンスによって支持されていない」と結論付けられている。また、アブフラクションの登場によって相対的に軽視されるようになった摩耗の影響が再評価されて来ている。このような NCCL をめぐる現状は日本ではあまり知られていない。

本講演ではアブフラクションと摩耗の歴史的背景および科学的根拠を検証し、現在の知見を解説する。また多くの NCCL ケースを供覧し、原因と臨床的対応を考察する。

略歴

1993年：東北大学歯学部卒業

1993-97年：東北大歯学部第二補綴科研修医・研究生

1997-99年：UCLA Biomaterials Science客員研究員

1999-2001年：北海道大学歯学部第二補綴科 医員

2001-2009年：北海道大学歯学部高齢者歯科 助手

2009年-現在：黒江歯科医院